

1. 事業の目的・経緯

里山フィールドでは、2006年より続けている里山保全活動を継続して行うことと、地域交流事業を行うことにより、地域住民に里山や身近な環境に対する意識の向上を図ることを目的とする。

研究所では「サイエンス・カフェ」を開催し、さまざまな環境問題について専門講師に解説いただく。

子どもむけの「キッズ・サイエンス・クラブ」では、屋内外のフィールドを使用し、わかりやすい生の環境体験学習を開催。大学教員や教育関係者などの専門家に直接教わることができるのも大きな特色であり、どちらも内容の濃い環境学習の場を提供することにより、環境保全意識の向上を図る。

また、活動を継続させるため、2003年に設立された特定非営利活動法人千姫プロジェクトの事業の一環としてはりま里山研究所の事業を行った。平成25年12月24日に千姫プロジェクトの定款変更を行い、NPO法人はりま里山研究所として平成26年度からの事業内容拡大に備えた。

2. 事業内容

定款に掲げる特定非営利活動事業の中で②地域における環境にかかわる調査・研究・企画・教育事業を中心とし、平成25年4月13日に任意団体「はりま里山研究所」を設立して活動を行った。

事業は、①里山保全活動 ②サイエンス・カフェ ③キッズ・サイエンス・クラブ ④地域交流事業 ⑤研究活動 ⑥連携教育活動支援 ⑦「海と空の約束プロジェクト」との連携活動 の7項目である。

① 里山環境保全活動

「定例里山保全活動日」として、毎月第2日曜午前中および不定期にも実施。森林や散策路の手入れと管理、遊具の管理や修繕などを行った。

香呂南校区地域夢プラン実行委員会と連携して里山散策路の延長工事(515m)を行い、サクラの苗木30本を植樹した(公益財団法人日本花の会より提供)。 参加人数34名



② サイエンス・カフェ

毎月第2日曜の午後に開催。

4月「鉾石」、5月「モリアオガエル」、6月「虫の眼から見た世界」、9月「自然界の放射能」、10月「熱と環境」、11月「ジャコウアゲハ」、12月「ビオトープ」、1月「兵庫の里山」、2月「熱帯雨林」、3月「佐渡島の水辺再生」を実施した。 参加人数168名

③ キッズ・サイエンス・クラブ

7月「科学工作教室」、8月「塩と熱のふしぎ実験・Tシャツでアイスクリーム作り」、12月「エコキャンドル作り」、2月「ジャコウアゲハの学習会と食草の植付体験」を実施した。

参加人数221名



④ 地域交流活動

「さくら・つつじ祭り」、「オープン・ガーデン」、「秋の里山祭り」、「クリスマス・エコキャンドルナイト」「古民具再生工芸展」を実施した。また、第2回ジャコウアゲハサミットを後援。参加人数 625 名。



⑤ うちエコキッズの研究活動

地球温暖化学習ソフト「うちエコキッズ」の改良研究と英語版作成を行い、日本エネルギー環境教育学会での発表(2013年8月)、論文公表(2014年6月予定)を行った。

⑥ 大学等との連携活動

兵庫県立大学環境人間学部のフィールドワークおよび特別フィールドワークと連携し、里山フィールドや研究所施設の活用を行った。

また、課題別教養科目「兵庫の里山・里海」での活用、エコ・ヒューマン地域連携センターの学生活動との連携活動支援、加古川南高等学校との連携教育（インスパイア・ハイスクール事業）、香呂南小学校、城見ヶ丘保育園(計 120 名)のフィールド活動支援を行った。



⑦ 「海と空の約束プロジェクト」との連携活動

環境紙芝居『海と空の約束』の多言語化について助言・支援を行った。

その他、佐用地域づくり協議会研修訪問受入(16名)

3. 事業の成果

①これまで同様、里山の保全活動を行うことにより、森林の環境が保たれ、遊具の修繕により子どもも安全に遊ぶことができた。また、保全活動を定期的に行うことによって、地域の方々の参加を得ることに繋がった。新たな散策路を延伸したことで日々の遊びや散歩などで地域の方々や小学校での活用が増えつつある。

②今まで学習の場に触れることが少なかった一般の方に、アットホームな雰囲気でも専門的な環境学習を行うことによる学習効果は高く、環境に対する意識向上に繋がった。

③里山と研究所という室内外のフィールドを使い分け、生の体験学習を行うことにより、子どもたちの心に残る環境学習を行うことができた。学校等の教員などの講師と親しく交流することは、子どもにとって大変良い経験となると思われ、保護者の評価も高かった。

④地域交流の開催で、里山の存在価値などのアピールになり、里山環境保護の意識向上につながると思われる。

⑤研究関係では地球温暖化学習ソフト「うちエコキッズ」の改善と英語版の開発を行い、学会発表と論文執筆を行った。家庭での二酸化炭素排出量が簡単に表示でき、地球温暖化対策や環境学習に有効であった。

⑥大学連携では学生の社会貢献活動や教育に寄与することができた。『海と空の約束』の中国語版、韓国語版、ベトナム語版、クメール語版、ドイツ語版、ポルトガル語版等の製作の支援を行った。

⑦これらの活動が平成 26 年 1 月 29 日 関西 TV スーパーニュースアンカー特集(約 10 分)として放送された。

4. 事業活動の問題点と解決策

学習会実施にあたって、会場の案内を工夫する必要がある、のぼり旗や案内表示を立てた。

JR を使った参加も可能だが車で来られる方も多く、駐車場確保が問題となり臨時駐車場を確保した。

活動に必要な運営費、管理費の確保が必要となった。26 年度からは正会員、賛助会員の加入が必要となるため、活動の紹介を行うとともに会費設定を行う。助成金等の申請を増やし、事業費の確保と平行して研究費の確保も検討する。